

国産乗用車の変遷

文責 水田悦夫

終戦

高速道路

中東戦争

人命尊重思想

昭和20年（55年前）

昭和40年（35年前）

昭和50年（25年前）

平成8年（4年前）

	戦後	所得倍増時代	バブルからバブル崩壊時代	近年
道路事情	舗装率低い 時速60 km / hまで	舗装率高い 時速100 km / hまで	舗装率高い 時速100 km / hまで	舗装率高い 時速100 km / hまで
ユーザー層	特権階級	一般大衆まで	若年層まで	国民2人に1台
生産形態	小品種少量生産	小品種多量生産	多品種少量生産（高級志向）	より安全な構造車
保有台数	僅少	急激に増加	ますます増加	横ばい
社会情勢	一般国民の関心小	排気ガス規制 車庫規制	排気ガス規制強化 車庫規制	安全意識
車体構造	フレーム付きボデー	第一次モノコックボデー	第二次モノコックボデー	衝突安全ボデー
車体重量	大 ほとんどが鋼鉄	軽量化 フレームレス	より軽量化 アルミ & プラスチック多用	人命を守る限度で
使用鋼板	通常鋼板	通常鋼板	高張力鋼板 防錆鋼板	超高張力鋼板 防錆鋼板